

ネパールのポカラ市・周辺地域における活動レポート

(現地訪問) 2017年10月27日—11月3日

秋子孝男 記

2011年、2012年にかけて約200台強の贈呈をネパールポカラ市と周辺で行なったが、今回新たに95台の子ども用車椅子の贈呈を行うことができた。現地社会福祉団体CBRSポカラとは2回目の共同プロジェクトであったが、2012年贈呈分の現状を確認する機会をもつこともでき、現地の子ども用車椅子への期待が、ますます強くなっていることを実感した。

ネパールは統計数値でアジア唯一の一人当たりGDPが1,000ドルを切る（日本外務省資料では2016年854ドル）、後発開発途上国として理解されている。障害をもつ子供たちに限らず、さまざまな支援を必要とする人々は多く、20年以上の活動歴をもつCBRSポカラとの交流を通し、彼らの活動は真に底辺の人々にも及び、地方行政機関などからの理解も受けながら、街の人々の間に着実に成果を残していることが理解できた。

本年度累計300台強を送ることができたことになるが、経年で既に使用できなくなっている車椅子も多く見受けられ、成長に伴う乗換え、現地補修作業を経てのリユース循環を実現するためにも今後とも活動継続を計画していきたい。

(A) 国内準備作業



①



②



③



④

- ① ②久々のネパール向け作業に日本在留ネパールメンバーも多く駆けつけてくれた。日本で発行されているネパール語紙、『ネパリーサマチャー』同WEBでも活動広報を行った。
- ② ④今回事業では昭島中央ロータリークラブからも大きな協力をいただき、国内作業、現地訪問にも参加いただいた。

(B) 現地活動

今回のプロジェクトでは、インド・コルカタ経由の長い陸路輸送、主要ルートから外れた地区へのコンテナ輸送など、ある程度変則事態も覚悟していたが、日本出港後のアジア海域台風影響での積み替え船の変更、コルカタ港での通関、列車輸送積み替え時の予測を超えた手続き、作業時間の長さなどで8月末に日本出港の貨物が、最終的には11月末にコルカタ着と、ひと月半近くの遅延となった。この結果現地での引渡し式、家庭訪問などの活動が相前後することとなったが12月には現地での子どもへの引き渡しが進んでいる。



⑤⑥カトマンズポカラは陸路 140 km、悪路のうえ工事、事故渋滞で 8 時間を要した。羽村市ボランティアセンターから預かった子ども用衣料品、千羽鶴などのカートン箱を携え移動。

⑦⑧ CBRS ポカラ事務所、カタといわれる歓迎のストールを巻いてもらう

⑨⑩ポカラ市南西 20 km の Waling 市に Dilip Pratap Khand 市長(左から二人目)を表敬訪問。この街にも 10 台近くの子椅子が届くことを伝わっており、今後とも期待させてもらうとの言葉



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱

⑪-⑯2日間を使い7人の子ども達を訪問。うち3人は当会が送った椅子の使用経験を持つ。サイズが合わなくなったり、破損のため新着の椅子の再貸与を心待ちにしていた。⑰⑱屈強なお父さん。つい最近まで国連PKO部隊傭兵として出稼ぎ行っていたとのこと。日本からの千羽鶴を喜んでくれた。

(C) 目録贈呈式、



⑱



㉓



㉑



㉒



㉓



㉔

⑱⑳CBRS ポカラトレーニングルームで、目録贈呈式。車椅子貸与を待つ子供たちに集ってもらい、当会の活動紹介、車椅子の使用上の注意、簡単な保守について説明した。㉑では子ども達から絵を描いてもらい貴重なお土産としてくれた。

CBRS ポカラは事務所に7名の常勤メンバーが働き、他の周辺市町村で9名の専属スタッフがフィールドワークを行なっている。別途十名からなるボードメンバー組織はポカラ市の経済人篤志家で構成されている。過去20年強で支援してきた対象者は5,000名を超え、現時点でも1800名近くのファイリングが活きていた。㉒㉓障害者用特殊靴の内製を行なっている。街では代書屋、スマホ修理、お菓子屋など支援を受けながら自立につながった障害者が笑顔で声をかけてくれていた。

(D) 車椅子到着と配布

11月末に貨物は無事ポカラに到着。車椅子の貸与作業が始まっている。⑲、⑳は我々も表敬訪問した Waling 市長参加の贈呈式の模様。地元放送局も取材に駆けつけたとのこと。



⑲



⑳



㉑



㉒



㉓



㉔



今回のプロジェクトは（財）日本国際協力システム JICS の NGO 活動助成を受け実施することができた。2018 年助成事業においても決定通知を受けることができ、現地も大いに喜んでいる。昭島中央ロータリークラブ殿よりのご協力併せ、深くお礼申し上げます。

以上